

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL  
MUSEUM OF HISTORY

# れきはく

No. 146  
2024.5.16



石川近代文学館(石川四高記念文化交流館) 外観

石川近代文学館 おでかけ展示

## くらべる文学展 in 歴博

令和6年度  
企画展



石川県立歴史博物館 外観

令和6年

4/27(土)

6/23(日)

【休館日】5/27(月)・28(火)

特集 令和6年能登半島地震によせて

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」によって被害を受けられました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。当館は被災した資料の保全に全力を尽くし、貴重な文化財を次世代につなぐために努めていく所存です。こうした状況の中、今年度の『石川れきはく』ではこの度の大震災にあたり、当館学芸員が何を考え、どのような活動をしているのかを記録し、文化財レスキューの“今”を伝えてまいります。

## 能登半島地震による 被災文化財のレスキューについて

館長 藤井 讓治

元日、能登地方を襲った大地震に驚愕した。まずこの地震で命を落とされた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。

人命を守り、被災した住みかを再建することが喫緊の課題であることは言を俟ちませんが、一方で、これまで受け継がれてきた多くの文化財が、こうした大災害によって失われることを危惧せずにはおれませんでした。

29年前の阪神・淡路大震災、13年前の東日本大震災等では、多くの被災文化財のレスキューがなされましたが、一方で失われた文化財も少なくありません。

日常とは異なるこうした災害時には、被災した文化財をいかに救い出すかが、博物館にとっての大きな使命と考えています。

地震から7日目の1月7日、友人でもある文化庁の地主参事官から自宅に連絡があり、能登半島地震での被災した文化財のレスキューを始めるにあたって、被災状況の把握と地元石川での取りまとめ体制構築の手順等について意見を求められました。自宅では状況を把握できないこともあり、昨年来能登に調査に入っている石川県近世史料編さん室の室長である木越さんを紹介し、同時に情報共有を始めました。その後、2020年に設立された国立文化財機構文化財防災センターの小谷さん、県の文化財課、能登文化財保護連絡協議会ともさまざまに検討を重ねました。そして2月13日、文化庁、国立文化財機構、石川県主催で合同会議が開催され、文化財防災センターを核にこの度の地震による被災文化財救出体制が構築されました。

歴史博物館でも1月11日には、県の文化財課と文化財救出の支援活動について協議を始め、22日の県庁での文化財救済連絡会準備会に参加するなど全体的な文化財の救出活動に関わるとともに、歴史博物館独自に被災した文化財を救出するため、博物館の展覧会等でお世話になった能登を中心とした文化財所蔵者の方々に文化財の被災状況をまず確認し、それを足場に被災文化財の救出を始めています。

被災文化財救出の活動は緒に就いたばかりですが、他の多くの諸機関・諸団体とも手を組みながら、博物館の館員一同、労を惜しむことなく、被災文化財の救出に取り組んでいく決意です。

## 未来の被災地のために

学芸主幹 大門 哲

地震後、さまざまの方からお声かけがありました。手伝うよという言葉も多く頂きました。お気持ちはありがたい限りです。しかし、右往左往しているなか、何を手伝ってもらうべきかわかりません。参考になったのは手を強くひっぱってくれる言葉、つまり教訓でした。

やはりというべきか教訓を届けてくれたのは東日本の博物館職員でした。自分たちが震災後どのような活動をしたのかそのレポートをお送り頂きました。そしてこんな言葉を添えてくれました。大事なのは「仕組み」だと。文化財被災はごく一部の人間が奮闘するのではなく、組織全体で、自省的にあたるべき事態だというわけです。

それは平成19年の能登半島地震のとき以来、最大の反省点として館職員の間で語り継がれてきたことでした。当時、いまだ国の専門機関は存在せず、文化財の被災対応は自治体が主導せざるをえませんでした。

ひとまず県教育委員会と県の関係専門機関が集まり、救済委員会を立ちあげました。しかし、ノウハウも資金もありません。そもそも被災対応より通常業務を重視する雰囲気の中割ける力は限られました。とうぜん、機能することはありませんでした。

今回の未曾有の事態を前にして是が非でも仕組み作りを急がねばならないというのが館長や過去を知る職員の思いでした。ありがたいことに、東日本大震災以後、国は文化財被災を深刻な課題ととらえ、その専門機関である文化財防災センターを立ちあげてくれました。

現在、同センターを核とし、県市町の各文化財課からなるレスキュー体制が構築され、被災に対応しています。センターは国立の博物館や研究機関、関係全国学会と、教育委員会は県立の文化機関、県内学会やボランティア組織とそれぞれ横の連携をすすめており、レスキューは各組織が縦横につながる大掛かりな運動へと拡大しています。

当館では当該事業の一翼になうべく、そして片手間をもって対応しようとした平成19年の失敗を省みて、地震後すぐに、次年度たる令和6年度の事業計画と各課事務分掌の見直しをすすめました。

わたしたちの活動は石川県の文化復興のためだけにあるわけではありません。未来の被災地へ教訓を届けるためにもあるのです。

# 地震によせて

見附島 令和6年4月23日 撮影

## 動き出した文化財レスキュー

学芸課長 大井 理恵

「海が、海が変わってしても」

地震から2週間ほど経ち、以前展覧会でお世話になった奥能登の方と電話で話をした時のことでした。かつて北前船で栄えた外浦の町は、海底隆起により海岸の風景が一変していました。私は、ご本人が無事なのか、自宅は、ライフラインは、食事はどうしているのかという心配が先に立ちました。しかし、その方の口から最初に出たのは、変り果てた地元の海への思いでした。避難生活の苦しさよりも、揺れへの恐怖よりも、地震によって慣れ親しんだ海が変貌してしまった悲しみが伝わってきました。おそらく、海と共に歩んできた地域のアイデンティティを喪失したような感覚だったのではないのでしょうか。

地震直後から「文化財レスキュー事業」の立ち上げに向けて議論が始まり、様々な立場の人が関わりながら体制を整え、すでに救出作業も進んでいます。あわただしさを増す中、忘れないようにしたいのは「何のために文化財を救うのか」ということです。能登には、寺社や個人、地域が所蔵・保管してきた文化財が多くあります。これまで長く文化財を守ってきた環境が、すべて地震前の状態に戻るとは限りません。集落が機能を失い、あるいは消滅し、その土地の歴史や生活文化を継承することが難しくなる可能性もあります。文化財を救うことは、単にモノを救うことではなく、危機に瀕している地域文化を拾い上げ、整理し、後世につなぐことに他なりません。それは本来、地方博物館の使命とも言うべき仕事であり、地震によって我々は足元を見つめる機会を得たのかもしれない。

博物館に直接ご相談をいただくことも多くなりました。「仏像を救出できないか」「蔵が倒壊しかけているが、中のものをどうしたらいいか」内容は多岐に渡ります。本格的に文化財レスキューが始動してからは、そのような電話が無い日はほとんどありません。大変な思いをされている中、わざわざ博物館に連絡を下さる、心中には自分たちの家や地域の歴史に関わるモノをどうすべきか、悩みと迷いがあるはずです。片づけては手が止まり、また手を動かし、再び止まってしまう。その繰り返しでしょう。1件1件に向き合い、複雑になった状況を解きほぐし、道筋をつけるお手伝いをすることが私たちの役割の一つであり、被災された方が「復興」に舵を切る契機になると考えます。

文化財レスキューはまだ始まったばかり、大きな船に乗ってあたりを見回しているような状態です。この活動を10年、20年、さらに先の未来にどうつなげるのか、目的はこれから見つけなければなりません。

## 当館の主な文化財レスキュー活動状況 【1月～4月】

期日	曜日	活動内容
1月1日	月	発災 博物館本館の被害確認(被害ほぼ無し)
1月16日	火	ホームページ、Xで被災文化財相談の受付告知開始
1月17日	水	珠洲市 個人より被災資料一時保管のため直接持ち込み(初の受入れ)
2月13日	火	文化庁、国立文化財機構、石川県、合同会議開催 「文化財レスキュー事業」および 「文化財ドクター事業」開始
2月15日	木	宝達志水町 個人宅 レスキュー
2月16日	金	志賀町 個人宅 現地調査(2軒) 1軒は破損激しく救出断念
2月20日	火	志賀町 個人宅 現地調査
2月21日	水	羽咋市 神社 文化財防災センター(以下、文防) 現地調査参加
2月25日	日	輪島市 寺院 文防現地調査参加
2月28日	水	珠洲市 寺院(4か寺) 文防現地調査参加 七尾市寺院など レスキュー予備調査
2月29日	木	七尾市寺院など レスキュー予備調査
3月4日	月	珠洲市 個人より珠洲焼を受け入れ
3月5日	火	輪島市、穴水町 寺院 文防現地調査参加
3月6日	水	輪島市 神社 文防現地調査参加 内灘町 神社 同町教委の依頼で現地調査
3月7日	木	七尾市 寺院 文防現地調査参加
3月11日	月	志賀町 個人宅(4件) 現地調査 ※文防、能登町柳田に能登現地本部設置
3月13日	水	珠洲市 寺院 文防現地調査参加
3月14日	木	宝達志水町 個人宅 文防現地調査参加
3月22日	金	中能登町 個人宅 現地調査
3月27日	水	能登町 寺院 文防現地調査参加
3月28日	木	七尾市 神社 文防現地調査参加
3月30日	土	能登町 個人宅 文防レスキュー参加
4月4日	木	七尾市 寺院 文防現地調査参加 志賀町 個人宅 レスキュー
4月11日	木	志賀町 個人宅 現地調査 内灘町 個人宅 現地調査
4月12日	金	七尾市 寺院 文防レスキュー参加
4月16日	火	七尾市中島町 レスキュー予備調査
4月17日	水	七尾市能登島町、田鶴浜町 レスキュー予備調査
4月18日	木	輪島市 寺院 文防レスキュー参加
4月19日	金	羽咋市 神社 文防レスキュー参加
4月20日	土	輪島市 重要文化財建造物 文防レスキュー参加
4月23日	火	珠洲市 個人宅 現地調査
4月27日	土	七尾市 個人宅 現地調査
4月28日	日	中能登町 個人宅 現地調査

### 文化財レスキューとは

地震で被害を受けた、もしくは被害のある建物に残された「文化財」の救出避難・応急処置・一時保管を実施する事業です。石川県では国の文化財防災センター等と連携して学芸員らによるレスキュー隊を編成しており、当館も県機関として活動にあたっています。

なお、ここで言う「文化財」は指定の有無を問いません。

石川近代文学館おでかけ展示

# くらべる 文学展 in 歴史博

西村賢太 アタッシュケース



徳田秋聲 サンタクロース面(徳田家寄託品)

展示室をめくりながら、  
石川近代文学館学芸員が  
企画展のみどころを  
ご案内します。

イベント  
紹介

申込不要/要常設展入場券  
石川近代文学館学芸員  
による展示解説

日時  
5月19日(日)・6月9日(日)  
各回13:30~14:30



深田久弥 帽子とステッキ

令和6年4/27(土)6/23(日) 9:00~17:00  
※展示室への入室は16:30まで  
【休館日】5月27日(月)・28日(火)

【観覧料】 石川県立歴史博物館の常設展入場券が必要  
一般 300円(団体240円) 大学生 240円(団体190円) 高校生以下無料  
※( )は20名以上の団体料金・65歳以上は団体料金・障害者手帳または「マイID」ご提示の方および付添1名は無料

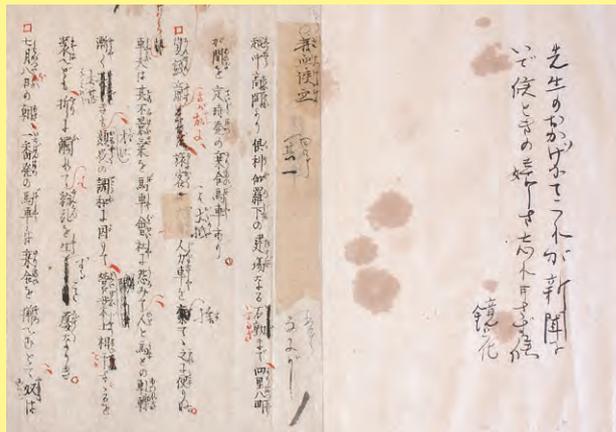


芥川龍之介・室生犀星 扇子



桐生悠々遺品「三猿」(小原古邨作)  
石川近代文学館蔵

石川近代文学館は、令和6年能登半島地震の影響により休館中です。この状況を前向きに捉え、貴重な所蔵資料を広くアピールしようと、石川県立歴史博物館にて「おでかけ展示」を実施する運びとなりました。  
自筆の原稿や手紙、日常的に手元に置いた愛用品にそれぞれの作家さんの個性が光る、総合文学館ならではの「見くらべて」楽しむ文学展です。県出身作家だけでなく、教科書にも登場する著名作家と石川のかかわりも紹介します。



泉鏡花自筆原稿「義侠血」決定稿(部分)明治27年(1894)頃  
石川近代文学館蔵



泉鏡花 うさぎ置き物



杉森久美 コーヒーポット

大河ドラマで  
大注目の  
『源氏物語』の  
現代語訳  
読みくらべも!

## 展示内容

「春の情景」「作家の顔」「名言・格言・座右の銘」  
「作家の好きなもの」「作家の文具」「作家と美術品」  
「作家とおしゃれ」 などなど…  
さまざまなテーマで作家の個性と魅力をお伝えします。



# 「兼六園開園150周年記念」特集 陳列について

学芸員  
コラム  
Column

学芸主任 中村 真菜美

兼六園といえば、満開の桜を楽しもうと、連日多くの来園者が訪れていたことが記憶に新しいところです。兼六園がもともと加賀前田家の庭園であったことはご存じのことと思いますが、兼六園はいつからみんなの「公園」として愛されるようになったのでしょうか。

明治4年(1871)2月より、兼六園は「興楽園」の名で一般の観覧が許されました。ただし、この時は、期間限定かつ厳しい入場ルールが設けられており、常時開園されるようになったのは明治5年5月のことでした。そして、明治6年1月に明治政府が発した太政官布達第16号を受けて、国指定の「公園」として登録され、翌7年5月7日には「兼六公園」の名で正式に一般公開されるに至ったのです。なお、「兼六園」の旧称に復するのは大正13年(1924)3月のことです。

さて今年、令和6年(2024)は、「兼六公園」が正式に一般公開された明治7年から150周年、そして「兼六園」に復称した大正13年から100周年のタイミングです。これを記念し、今年度は当館の所蔵する兼六園関係資料を常設展示室の近代コーナーで特集陳列します。近代の公園化のあゆみを中心に兼六園の歴史を紐解くことを目指して、季節ごとに異なるテーマを設定し、展示替えを行っていく予定です。

第1弾は「「兼六公園」誕生！－文明開化の夢舞台」と題し、令和6年4月27日(土)～6月23日(日)を会期として実施します(5月27日(月)・28日(火)は休館)。今の姿からは想像が付きにくいかもしれませんが、明治初頭の兼六園は文明開化の風が香る場所でした。明治3年、園内の築山・山崎山の下に金沢では最初の異人館「デッケン館」が建てられ、のちに勸業博物館東本館として使用されたのは象徴的です。明治5年には金沢初の博覧会が異御殿(文久3年(1863)建立、明治7年に成異閣に改称)で実施され(図1)、書画・銅陶漆器・刀剣・貨幣・繊維製品・伝信機・蒸気ひな形など約700点が並びました。正式開放された明治7年の6～7月には、6200点もの展示品が一堂に会す博覧会が開催され、金沢博覧会執事局が発行した出品資料の図版を見ると(図2)、最新のメリヤス織機器、当時の石川県で海外輸出が企てられていた九谷焼の数々、そして

三足のアヒルといった奇形の動物までバラエティに富んでおり、見世物的な雰囲気醸しながらも新たな時代の到来を伝える内容になっています。入場者は7万2千6百人を超え、観客の熱狂ぶりを伝える錦絵も残されています。第1弾の特集陳列では、こうした文明開化の拠点としての「兼六公園」に迫るべく、明治初頭の様子を取り上げます。

最後にちょっとだけ宣伝を。当館の友の会である「れきはくメイト」にご入会いただくと、特典として常設展示を無料で観覧できます。ということは、1年かけて常設展示室で展開する「兼六園開園150周年記念」特集陳列をお得にお楽しみいただけるチャンス。春は企画展「近代文学館おでかけ展示 くらべる文学展 in 歴博」もあわせて無料でご覧いただけますので、この機会にぜひ入会をご検討いただければ幸いです。

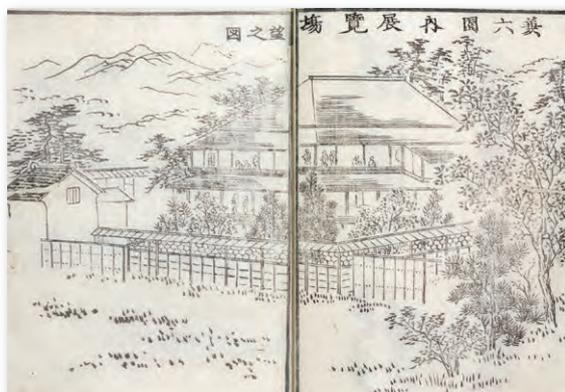


図1：兼六園内展覧場望之図  
(『金沢展覧会品目』(明治5年(1872)、当館蔵)より)

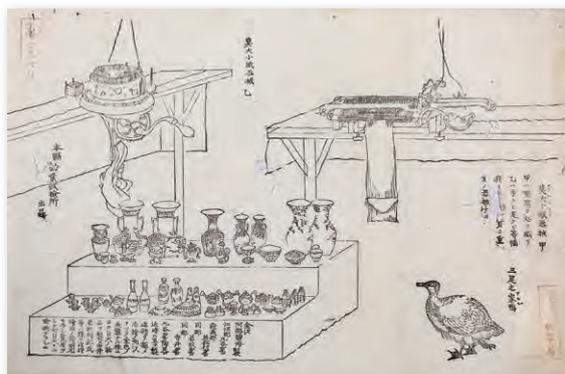


図2：明治7年金沢博覧会出品図 明治7年(1874)、当館蔵



# 能登の箱式石棺

資料課長 三浦 俊明

## 能登の古墳と箱式石棺

石川県には、古墳時代（3世紀後半～6世紀）に3000基をこえる古墳が築かれた。そのうち約6割は能登にあり、特に羽咋市～七尾市を通る邑知地溝帯の付近に多いが、半島の海岸部にも古墳は分布している。能登半島で造営された古墳の特徴の一つと言えるのが今回、取り上げる箱式石棺である。

箱式石棺とは、石材を箱形に組んで造られた棺のことで、古墳に被葬者を納める際に使用された。古墳時代の棺には主に木棺と石棺があり、石棺には石材を削り抜いて造られた刳抜式石棺と複数の石材を組み合わせた組合式石棺があり、箱式石棺は後者にあたる。能登半島には、その可能性があるものを含めると、約10ヶ所で箱式石棺が見つまっている（図2）。志賀町鹿頭神明森古墳群・珠州市永禅寺古墳群では複数の箱式石棺が発掘されており、調査が進むと、さらに石棺の確認数が増えるであろう。

石棺の部材には、安山岩など、板状に割れやすい石材が使われた。この安山岩は志賀町～七尾市以北に産出するので、地元の石材が使用されたようである。石棺の内法は長さ2m、幅50～60cmほどが平均的な大きさである。羽咋市柴垣円山1号墳では側面に10枚の横長の板石を巧みに組み合わせて、長さが3.5m近くある石棺に仕上げられている（図1）。石棺の内部に男性被葬者と副葬品が納められた後、5枚の蓋石で覆われた（写真）。

箱式石棺には、主に刀・剣・鉄鏃（矢尻）・刀子・玉類などが副葬されており、これらの副葬品から能登では古墳時代中期（4世紀末～5世紀）に箱式石棺が流行していたことがわかる。古墳時代後期～終末期（6～7世紀）には、さらに大型の板状石材を組み合わせた石室（墓室）が能登町七見いずがま古墳などで見つまっている。石棺のように見えるが、内部の幅が1m以上あることから、棺ではなく、箱式石棺とよく似た技法で構築された石室と考えられる。



写真 羽咋市柴垣円山1号墳 箱式石棺

## 海でつながる古墳の展開

箱式石棺は弥生時代に朝鮮半島から伝来し、九州地方を中心に西日本で広がった。古墳時代には古墳の埋葬施設として普及したが、古墳文化の中心地であった近畿地方中部には少ない。箱式石棺は北陸地方では能登半島で独特に見られ、富山県高岡市桜谷古墳群でも2基の箱式石棺が確認されている。なお、古墳時代中期末～後期にかけて加賀や能登南部に家形などの組合式石棺が分布する。これらの地域の組合式石棺には大型の底板があり、明確な底板をもたない古墳時代中期の能登の箱式石棺とは別の系統の石棺である。

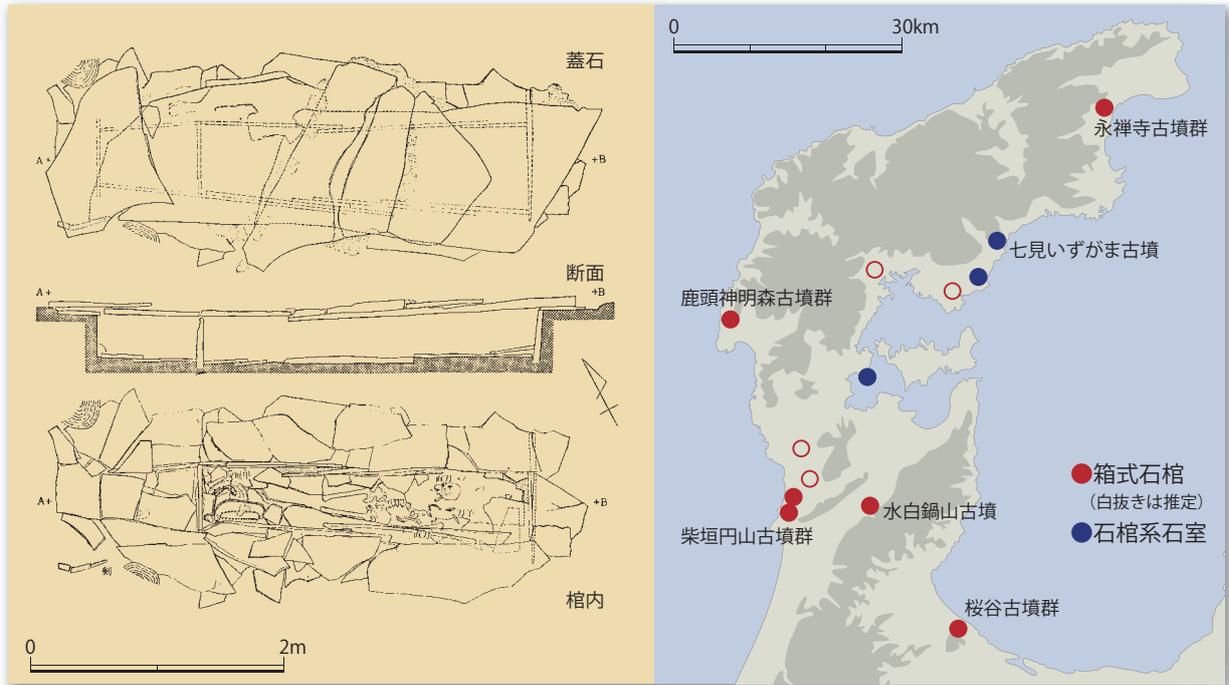


図1 羽咋市柴垣円山1号墳 箱式石棺  
(出典：羽咋市『羽咋市史 原始・古代編』1973年)

図2 能登半島の箱式石棺の分布

能登の箱式石棺には、柴垣円山1号墳や永禪寺2号墳のように、棺身上部の周囲に棺材と同様の板石が敷き詰められた石棺がある(図1下)。こうした特徴をもつ箱式石棺は鳥取県など山陰地方で認められることから、日本海を通じて山陰地方から能登半島に箱式石棺が伝来した可能性が指摘されている。

箱式石棺の分布(図2)をみると、中能登町水白鍋山古墳を除くと、海岸の近くに位置する古墳の立地が半島全体で共通している。古墳の数が多い内陸部の邑知地溝帯では、古墳時代中期の埋葬施設で木棺が確認されているが、箱式石棺は水白鍋山古墳の1基しか見つかっていない。志賀町南部の内陸部でも箱式石棺の出土が伝えられているが、かつてこの地域には川の水路で海に通じる福野瀧が存在した。海岸部の各地で箱式石棺の構造や石材が共有されており、木棺を使う北陸の他地域と異なる能登特有の墓制が海沿いに広がっていたことがうかがえる。まさに海でつながる古墳文化と言える。

箱式石棺が埋葬施設として採用された古墳は、墳丘長60mをこえる水白鍋山古墳を除くと、いずれも径25mをこえない小規模な円墳である。しかし、柴垣円山1号墳に短甲(甲冑)、永禪寺1号墳に金銅装の胡籛(矢入れ)が副葬されており、箱式石棺の古墳には大規模な前方後円墳に劣らない内容の副葬品が納められた。古墳の墳丘規模こそ大きくないものの、その被葬者像として日本海を活躍の舞台とした有力首長を想定できる。こうした首長が能登半島の津々浦々に割拠し、墓制を共有できるような政治的・社会的ネットワークが海を通じて展開していたことを箱式石棺が物語っている。

令和6年能登半島地震では多くの文化財が被災し、古墳や城跡などの埋蔵文化財も大きな被害を受けた。能登の古墳はこれまで未調査のものが多く、小規模な古墳といえども、能登の古代史を復元するうえで不可欠な歴史遺産である。震災を乗り越えて、かけがえのない文化財を後世に伝える努力がこれまで以上に必要である。

催し物  
案内  
Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。  
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

**5月** 休館日：5/27(月)～28(火)

19日(日) **「石川近代文学館おでかけ展示 くらべる文学展 in 歴博」**  
展示解説 **要常設展チケット／申込不要**

**6月** 休館日：6/24(月)～25(火)

9日(日) **「石川近代文学館おでかけ展示 くらべる文学展 in 歴博」**  
展示解説 **要常設展チケット／申込不要**

15日(土) **れきはくゼミナール** **聴講無料／申込不要**  
「珠洲の岬の神と仏－須須神社・高勝寺の歴史－」  
講師：岡崎 道子 (当館学芸主任)

**7月** 休館日：7/16(火)～7/18(木)

27日(土) **れきはくゼミナール** **聴講無料／申込不要**  
「加賀藩年寄衆八家の席次」 講師：林 亮太 (当館学芸主任)

**れきはくゼミナール**

石川の歴史や文化に関する話題について、当館学芸員が毎回テーマを変えてお伝えします。  
月1回程度、土曜日に開催！ 申し込み不要なので、気軽にご参加ください。

次回  
展覧会  
のお知らせ

夏季特別展  
**知の大冒険**

— 東洋文庫 名品の煌めき —

令和6年(2024)7/19(金)～9/1(日)

東京都文京区に位置する東洋文庫は、東洋学分野のアジア最大級の研究図書館であり、世界五大東洋学研究図書館の一つです。愛書家でも知られる三菱第三社長・岩崎久彌によって、大正13年(1924)に設立されました。

約100万冊の蔵書を誇る東洋文庫の全面協力の下、日本屈指のコレクションの中から選りすぐった名品を通して、アジアを中心とした歴史や文化を紹介します。マルコ・ポーロの『東方見聞録』、『アヘン戦争図』など、誰もが教科書で見たことのある有名な書物や地図、絵画に加え、あまり知られていない文字や言語、古い街並みや風景、動植物など、まだ見ぬ新たな「知」との出会いが待っています。

ウィレム・ブラウ、ヨアン・ブラウ『大地図帳』 1648-65年 アムステルダム刊 ▶ 公益財団法人東洋文庫蔵



いしかわ赤レンガミュージアム  
**石川県立歴史博物館**  
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1  
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836  
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp  
https://ishikawa-rekihaku.jp/



当店を初めてご利用の方限定 **特別価格** 太縮れ麺とすっきり醤油スープがくせになる。毎日食べても飽きない喜多方定番の味!!

おかげさまで!! **1億9,000万食突破!!** 2022年12月時点

商品内容：生麺120g×4・しょうゆスープ×4  
**すっきりしょうゆ喜多方ラーメン** (税込)  
**1箱 990円** 4食入

「河京」の通信販売を初めてご利用の方限定  
2箱以上お買い上げで **送料無料**  
3箱以上お買い上げで **チャーシュー2枚プレゼント!**

送料：●東北・関東・信越・中部・北陸・関西…880円 ●北海道・中国・四国・九州…1,200円 ●沖縄…2,500円

商品番号 **8207** ●お申し込みはお電話で ●受付時間10:00～17:00(日祝休)  
株式会社 **河京 050-1868-6391**  
河京 KAWAKYO 麵屋河京(株式会社河京) 〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字常盤町2681

●お支払い方法：郵便・コンビニ振込・代金引換(別途手数料・330円/税込) ●ご注文後10日前後でお届け ●返品は8日以内(返品の際の返送料はお客様負担) ●お客様の個人情報は厳重に管理し、商品の発送・弊社のご案内等のサービスの提供以外には利用いたしません。